

第 36 回グリーンプランおおた推進会議 議事概要

日時 令和5年3月22日(水) 14:00~16:00

会場 大田区役所本庁舎 11階 第五・六委員会室

出席者

【推進会議委員】 島田委員長、池邊副委員長、村上副委員長、中村委員、加藤委員、前園委員、樋口委員、相川委員、牧野委員、原田委員、菅原委員、龍口委員、西山委員、遠藤委員、小泉委員 計 15 名

議題 1 第 35 回グリーンプランおおた推進会議の振り返り

- ・承認する：15名 承認しない：0名

委員長

- ・議事(1)の議事録は個人名を消してホームページに掲載されるが、ご承認いただけるか。

→ **一同**

- ・「異議なし」の声あり

議題 2 今後の会議の進め方について

委員長

- ・今までの推進会議は、庁内のみどりに関わる所管の状況報告に対して意見を述べるのが主流であったが、進め方を再検討し、来年度以降は①重点的な取組である「(仮称)大田区グリーンインフラ事業計画の策定・推進」「(仮称)グリーン基金の創設・運用」、②みどりの取組の検証評価に関する4つのテーマ「1 みどりへの関心向上」「2 質に関する取組」「3 量に関する取組」「4 公民連携」にしぼって皆様からご意見を頂戴し、行政に反映させていくということである。

委員

- ・推進会議自体が頻繁に開催されるわけではない。会議のない期間にも、活動を推進していくときや参考となる取組が行われているときに、情報を共有できるツールがあるといい。先日も北海道から視察団が来た際、各自治体の職員と市民も一緒になってみどりが盛んな場所を歩き、交流するといった取組をした。そういう機会が大田区にもあるといい。グリーンプランをH23に作ったときはまちあるきを行い、コラムに反映したりした。今後呼び掛けていいのであれば、委員の皆さんにお声がけしたい。

委員長

- ・テーマは4つある。通常、推進会議は年に3回の開催であるため、最新の情報の共有は大事である。これも「みどりへの関心向上」に大きく関連すると思う。とくに事業者をどう巻き込むか、アイデアはあるか。

委員

- ・今は、SNSやプラットフォームなども作れる時代である。こういった形で皆さんと共有できるツールが作れないか。気が付いたら新しい公園ができている、ではなく、プロセスが見られるような仕組みがあるといい。活動の取組も同じである。

委員長

- ・まずは会議の進め方について、総合的にこのやり方で良いか、ご意見・ご質問はあるか。

委員

- ・重点的な取組としてグリーンインフラの事業計画の策定・グリーン基金の創設が挙げられているが、この2つの取組が長期的なものだとは思えない。計画策定や基金創設は1年もすればできるもので、そのあとのことはどう考えているのか。10年もかけて計画の策定をするのか？仮に1年で計画を策定したとしても、グリーンインフラという事業名が一般の人にはわかりづらい。もう少しかみ砕いて、みどりだけではなく水の循環も含めてほしい。自分のイメージでは「水とみどりをいかすまちづくり」をどういうふうにしていくのか、区民に分かりやすい言葉に置き換えないとわからない。もっと関心を持ってもらえるような名称、サブタイトルにしてはどうか。

→事務局

- ・計画の策定に10年かかるというものではない。まずグリーンインフラから説明すると、計画の策定については令和6年度を予定している。よって、計画自体は1年で策定を行う。しかし、事業計画を動かす期間と見直し、その先の継続、という長期の視点でみるのが重要と考えている。グリーン基金についても、令和5年度から6年度が検討期間であり、創設、運用と続いていく。いま事務局案として提示したのは、「推進」や「運用」などを継続的に進める中でみどりの取組をどう取り込んでいくのか、また、みどりの取組を組み込む中で区民や事業者との連携が難しい部分があると再認識した。そこを考えながら、グリーンインフラとグリーン基金の取組にみどりの取組を組み込みながら進めていきたい、という意味で、グリーンインフラとグリーン基金が主軸となり、それと連動しながらグリーンプランの推進会議のなかでみどりの取組の検討を新たにやっていく必要があるのではないか、という提案である。

委員

- ・資料2には「グリーンインフラ事業計画の策定」としか記載がないが、推進も含まれているということでもいいのか。

→事務局

- ・そのとおりである。策定や創設だけでなく継続の視点も持っている。

委員（まちづくり計画調整担当課長）

- ・「水とみどりを活かす取組」をグリーンインフラの中ではたとえば「自然の豊かなみどりある空間の環境と景観で暮らすことのできる生活空間の形成」とし、オープンスペースを活用し

た健康イベントや「グリーンインフラでつなぐ取組」として、区民が緑地の維持管理として区民農園等の活用を行っていくことにより、減災や国土強靱化に寄与することで、新たな持続可能な魅力ある社会の実現を目指したいと考えている。グリーンインフラやグリーン基金については、今後の推進会議において進捗報告・議論させていただきたいと思っている。一緒に考えていただきながら、大田区にとってよりよいみどりの整備に取り組んでいきたい。

委員

- ・資料2に記載のある「策定」には推進など長期の取組も含んでいるという事務局の意図は理解した。サブタイトルを区民に分かりやすいようにしたほうがいいのではということに対してはどうか。

→委員（まちづくり計画調整担当課長）

- ・そちらに関しては、事例などをこちらから提案させていただきながら、区民の方にもわかりやすいものにしていくよう努めていく。

委員長

- ・「グリーンインフラ事業計画」と区報などにも出ている以上、それを実際に展開していくときに区民や事業者がわかりやすいような名称を使うのも検討したらよい。

委員（まちづくり推進部長）

- ・確かに「グリーンインフラ」とはそもそもなにか、という区民が多いと思う。グリーンインフラに代わる言い方については、今後考えていきたい。また、都市計画マスタープランのテーマDには「水とみどりのネットワークによる安らぎの都市」という記載がある。これにつながるような取組にしていく。

副委員長

- ・グリーンインフラのわかりやすさについては、国の会議でも課題となっている。住みやすいまちをつくるインフラ整備に、みどり（グリーン）の機能を活用することがグリーンインフラだと、私は説明している。水とみどりはもちろんグリーンインフラに含まれるが、それをもっとわかりやすくしなければならないのはそのとおりである。一方で、国交省の「グリーンインフラ推進戦略」に基づいて計画を策定する以上、「グリーンインフラ」の名前は避けられないと思う。みどりをつかうまちづくりは、にぎわいなども対象となるので、大田区におけるグリーンインフラがどのような方向性になるのかが重要である。

委員

- ・グリーンインフラ事業計画は、ぜひ子供にもわかりやすいものにしてほしい。例えば、区民団体である呑川の会は、久が原小学校で勉強会をおこなった。区民団体などと連携する取組にしてほしい。

委員

- ・グリーン基金にとっても関心があるため、今後も進捗を見守っていきたい。また、区民農園は区民の関心がとても高く、推進していくのは大歓迎である。

委員

- ・公民連携が単独のテーマとなっているが、ほかのテーマ1～3にもかかってくるものではないか？

→事務局

- ・すべてのテーマがお互いのテーマと関係性をもっている認識している。そのなかで、各取組に関する意見交換を行うために、テーマを4つにわけている。

委員

- ・テーマ1「みどりへの関心向上」について、広報だけでは関心は高まらない。例えば、景観まちづくり賞を受賞した場所をたどるまち歩き、散歩ルートづくりなど、実際に歩くことのほうが大事である。地域を変えながら、その地域の人や委員と区職員と一緒にまち歩きを行うなどでもいいと思う。

委員

- ・公園管理を民間と一緒にやるのは難しい。街なかに森がたくさんあると、利用連携もでてる。また、花壇についても、花によって色々な植え方がある中で、お年寄り公園を歩くときに花の位置が変わるだけでその花が見たいからその公園に足を運ぶこともある。そういう情報を踏まえて民間とうまく一緒に協働できたらいいと思う。行政は、もっと遠慮なく指導をしてほしい。例えば、大田区は本門寺公園などもあり緑が少ないわけではないため、もっと利用できると思う。できるできないは別だが、造園団体はできる限りの努力をしていきたいと思うので、行政はどんどん指導してほしい。そこで民間と連携することができれば、もっといい方向に進むのではないかな。

委員長

- ・テーマ2から4については次回以降の推進会議において意見交換を行っていく。また、本会議でたくさん意見をいただいたところではあるが、この会議をもって今年度のグリーンプランおた推進会議は最後になることから、ぜひ委員1人ずつから一言いただきたい。

委員

- ・毎回会議の中で色々な議論を行い、区民として「こうだったらいいな」と思うことを率直に意見として述べてきた。それがいい形で取り入れられ、計画の中にも反映されうれしく思う。次年度以降、どう展開されていくのかを引き続き協力しながら見ていきたい。

委員

- ・2期4年にわたり委員をした。はじめは全く知らない分野であったが、自分自身いろいろとまちを歩き勉強してきた。会議の中で先生方の意見も聞くことができ、大変勉強になった。

委員

- ・どんなに文明開化が進んでも、やはり環境が一番大事だと思っている。こういった会議に参加し、力を尽くし、安心安全な大田区をつくっていくことは素晴らしいことだと思う。

委員

- ・人が生きるために、みどりは本当に必要である。それに対し、先生方からお話をうかがえ、勉強できることに大変感謝している。

委員

- ・区民の方が一人でも多くみどりに関心を持ち、我々に色々な面で指導いただけるといい。

委員

- ・日程が合わずあまり会議に出席できていなかったため、建築設計という実務のなかでみどりについて苦勞していることを話したい。一つ目は、地方の公共住宅の設計において、行政と話をしていると、木はなるべく植えてほしくないといわれる。理由としては、メンテナンスが

難しいことがある。住宅の一角に木を植えることは、昔であれば住民が協力して落葉などの処理をする意識があったが、今では何かあれば「行政がやってくれる」という意識が強い。木を植えるほど行政の仕事が増えるが予算がつかない、という面から行政は木を植えてほしくないそうである。

- ・二つ目は、都内の大きい公共建築物の建築において、隣接する住宅の住民から「公共建築物の敷地内に植える樹種はなにか」と聞かれる。緑化基準があるため、それに即して木を植えるが、「ケヤキはやめてほしい。落葉の処理は誰がするのか」といった意見をもらう。先ほど教育という話もあったが、植えることだけではなく植えた後のことを考えることも教育のひとつではないかと感じている。

委員

- ・どうやったら協働して取組ができ、よりよくなるかを考えていきたいと思う。また、ふれあいパークの活動の制度も20年以上経ち、制度開始当初から携わっているが、そろそろ色々な面で見直しが必要になる時期だと感じている。
- ・先ほどケヤキの話が出たが、SDGsだけでなく資源循環という意味でも、落葉も大事にしていきたい。土に戻せるものは戻していきたいという風に思っている。役所前の花壇の後ろに、抜いた草などを入れて土に戻すバイオネストというものを実験的に行っている。役所の前でバイオネストを行っているのは大田区だけだと自負している。今日帰る際に、ぜひ見ていただけると嬉しい。

委員

- ・私はひと月に1度、大岡山駅前の花壇整備を、〇〇委員や地域の中学生と協働でおこなっている。先日、都市基盤整備部の遠藤部長にも見に来ていただいた。また、先ほどから色々な方から「現場を見ないと何もわからないだろう」という意見をいただいている。行政の職員はぜひ、こういう形で活動をしているのだというところを見に来てほしい。また、次年度の委員の方にも、一度現場をみてもらう機会をつくる必要があるのではないかなと思う。

委員

- ・委員になった当初から主張している、ひとり1㎡のみどりづくりについて、必要な種を区に要求し、まちの中に植えている。しかし、その結果を出す機会がいままでない。私はこのほかに景観審議会の委員もしているが、そういう会議と連携して、グリーンプランでこういう取組をしたことを景観審議会が評価する、ということなども必要ではないか。

副委員長

- ・他の自治体の緑の基本計画に関する会議にも出席しているが、大田区の場合は委員の皆様が積極的に発言されていて勉強になる。また、その意見を職員が真摯に受け止め、改良・改善を行い計画に反映したことに對して敬意を表したい。今回で退任される委員もいると思うが、今後もこの計画は展開していくので、ぜひ違う立場から見て継続的に関わっていただければと思う。

副委員長

- ・これまでの計画策定の会議において、事務局にいろいろな指摘を行ったが、対応していただき感謝する。資料2のテーマについて、4つがテーマではなく、すべてが循環して1つだと思っている。〇〇委員が、「指導していただければ」とおっしゃっていたが、〇〇委員、〇〇委

員、〇〇委員とともに、「どこかの公園をモデル的に変えてみてくれ」といったような要望があれば、造園の費用は安価であり効果が目に見える。そして、公園が変わると地域が変わる。公園が変わったのに地域の資産価値が変わらないのはおかしいと思っているくらい、公園が美しくなることが重要である。みどりの中には必ず「美しさ」があるのに、テーマの中に美しさというワードが出てこないのは悲しい。今までは「みどりの質」というと主に木のことであったが、最近では「ガーデニング」も大きい。ガーデニングをしている人たちと一緒に活動できる機会がやってきた。区民の人たちも、そういう形を求めている。なおかつその中で、いままでのように花壇に植えたものを捨てるのではなく、宿根草（多年草）で冬は枯れるが春になったら芽吹く、ごみにならない花壇が全国的に普及してきている。そういうものを、行政が業界団体などにやってほしいと一押ししてくれればいい。せっかく〇〇委員や〇〇委員もいるのだからお手伝いいただいてやっていける。事業者が難しければ商店街の方や区民などと協働していけばいい。駅前の再開発などを行う際も、区が勝手に決めて植えるのではなく、区民の意見を入れながら、「蒲田の駅前自分たちが作ったんだ」と思ってもらえるものにしてほしい。

- ・委員会は、委員から意見を色々いただいているが、推進会議は何のためにあるかという、区の批評をするためではなく、区民がどのようにみどりのアクションを起こしてくれるか、施策の中に区民の人がどうやって入り込んでいけるか、どう工夫していくか、一緒になって協働して何かを成し遂げて、どんどん広げていくという役割を持っている。区は色々な良い取組を展開しているが、腰が重いと感じる。学識者ももっと使っていきたい。自分自身も出前講座を他自治体でやったことがある。予算がなければ、クラウドファンディングや、これから創設するグリーン基金も使っていけばよい。ぜひそういうことを毎年1つずつでもやっていくと、グリーンプランの取組や、区民が参加できるということが区民に実感してもらえるとと思う。

委員（環境清掃部長）

- ・環境清掃部です。環境清掃部では次期環境アクションプランを策定している。本計画については、グリーンプランと連携し整合を取りながら作っていきたいと思う。グリーンプランの4つのテーマに「公民連携」とあるが、区民、事業者、行政がそれぞれの役割を果たしながら、みどりづくりを推進していきたい。昨年3月に策定した環境アクションプランの中にも「パートナーシップ」とあり、すべての目標を網羅するもの。グリーンプランと同じく、区民、事業者、行政が主体的に動いていくことを目標としている。今後、グリーンプランは区民も事業者も「我が事」としてとらえていただいて、さらに区のみどりが発展するように行政としても力を尽くしていく。引き続き協力をお願いする。

委員（都市基盤整備部長）

- ・都市基盤整備部です。都市基盤施設の維持ということで、公園、道路、河川、すべてがみどりに関わることだと認識して参加している。皆様のご意見をいただきながら計画を改定したが、これからは大事だと思う。水とみどりは区民がうるおい、安らぎを感じてもらえる有効な要素であり、まちのなかでも大切な空間だと思う。区民に親しまれるような公園、道路、河川などの面で汗をかいていききたいと思う。先ほど〇〇委員からも区民協働の話が出たが、ふれあいパークも区民協働ということで開始し、その後おた花街道が始まっており、公民

連携については現在進行形のテーマだと認識している。今後も汗をかいていきながら、どのようなやり方が区民にとってよりよい空間になるのかを考えていきたいと思う。

委員（まちづくり推進部長）

- ・まちづくり推進部です。特にこの2か年については、計画の改定ということで、どう改定していくかということでご意見をいただき、おかげさまでこのような形で後期に向けていい計画がまとまったと思っている。改めて協力に感謝する。その中で、素案に対して色々意見をいただき、どういった形でこの計画を作り、区民に関心をもって取り組んでいただくかというところで、冊子の構成についても、特に第一章については基本的な考え方として、コロナ禍でもみどりや地域に対する関心が高まっている中でみどりをどう作っていくかということをもとめている。7ページにもあるが、みどりのまちづくりを進めていくことで、みどりの様々な機能・効果を得られる。そういったことをしっかりと発信していく。区民に関心を持ってもらう取組は、区としては弱いところだと認識しているため、皆様のお知恵を借りながら検討し、取り組んでいきたい。今後ともご助言等頂戴したい。

委員長

- ・ぜひ今後とも、色々なお立場から水とみどり豊かな大田区が反映するよう、色々お力をお貸しいただければと思う。以上をもって、議事を終了する。

以上